

I. 総 説

はじめに

東京大学農学部附属演習林は、林学・林産学に関する基礎的ならびに応用的試験研究を行い、併せて学生の実習等に供することを目的とした研究教育施設である（「大学設置基準」（昭和31年10月22日文部省令第28号）第39条規定の農学部附属施設）。

本演習林は、本部（事務部・研究部）を農学部構内に置き、わが国の森林の気候分布に応じて7ヵ所（千葉県天津小湊町外、北海道富良野市、埼玉県秩父市外、愛知県瀬戸市外、山梨県山中湖村、静岡県南伊豆町、東京都田無市）に地方演習林等を設置している。それぞれ、立地条件および設置の目的に適合する森林と施設を備え、森林環境の保全と地域林業の発展に寄与するよう運営されている。森林の総面積は32,430haに達している。

1890（明治23）年、東京農林学校が帝国大学に合併され農科大学が新設されたが、1894（明治27）年千葉県下の清澄山林に農科大学実習用として、初めて演習林が設定された。1994（平成6）年は、その設定から数えてちょうど100周年を迎える。本演習林の面積は当初僅かであったが、その後漸次拡張され、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、山梨県、静岡県、愛知県、北海道、樺太、朝鮮、台湾、海南島にわたり、第二次大戦の終戦時においては総面積約255,000haに及び、森林の気候帶上熱帯から寒帯に至る各種の代表的森林を保有していた。しかし、樺太、朝鮮、台湾、海南島に設置された海外演習林は、敗戦に伴う国土の喪失によって本学の所管を離れた。

以下、現存する演習林および廃止された演習林（国内、海外別）について、設置年月の順に概要を記すと以下のとおりである。

千葉演習林

千葉演習林は、1894（明治27）年11月わが国最初の大学演習林として、千葉県房総半島の南東部清澄山等に創設されたもので、現在の森林面積は2,171haである（同県安房郡天津小湊町外に所在）。森林帶上は暖帶林に属し、常緑広葉樹を主とし、モミ、ツガ等の針葉樹を含み変化に富む林相を呈している。徳川時代は清澄寺の寺領であった部分もあり、浅間山（清澄山）原生林などの貴重な学術参考林や、設立後に造成された内外樹種見本林・スギ品種別植栽展示林などがある。スギ・ヒノキ・マツ等の人工林は、設立以前のものも引き継ぎ、その後人工造林が旺盛に行われた結果、高齢級人工林を含みほぼ法正林状態となり、総面積865haに達している。これらの人工林は、用材林の施業法や育林技術に関する研究のほか、各種の教育・実習の用に供されている。また近年は原生林や天然林を対象に自然誌、立地生態系に関する調査・研究もさかんに行われるようになってきている。本演習林における本学部学生実習は、造林学、森林経理学、測樹

学、森林植物学（以上、林学科）、林学実習（林産学科）などが行われ、他学部・他大学の学生実習にも広く利用されている（森林生態学、植物分類学、地質学など）。

北海道演習林

北海道演習林は、1899（明治32）年10月に創設された。本演習林は、石狩川水系空知川の右岸に位置し（北海道富良野市）、総森林面積22,850haを占め、本学演習林中最大の面積を保有する（全体の約70%）。森林帶上は温帶上限から亜寒帯に及び、針・広葉樹の混交した天然林を主体としている。創設当時は人口希薄で林業経営の所要労働力の供給が危惧されたため、開拓農民を入植させ、農業と林業の調和を図った結果、本演習林は約6,000haに及ぶ農地を所有するに至った（いわゆる「林内植民制度」の創設）。戦後これらの農地は、「自作農創設特別措置法」により入植農民に解放された。1956（昭和31）年以降、集約的な天然林施業として著名な林分施業法の実験が事業的規模で推進されてきている。本演習林内には各種の学術参考林や試験地が数多く、また、外来樹種見本林、樹木園、植物保護区なども設けられているうえ、1982（昭和57）年から、実習・研究等を通じて相互交流を図るためのセミナーハウスが設置されている。これらを通して、北方森林・林業の研究および教育の場として広く利用されている。学生実習としては、本学部林学科の林学総合実習が実施されているほか、本学の学生・院生・教職員を対象とした「森林体験セミナー」が近年行われるようになった。また、他大学の学生実習にも利用されている（森林生態学など）。

秩父演習林

秩父演習林は、1916（大正5）年12月に創設された。本演習林は埼玉県の荒川上流（同県秩父市・秩父郡大滝村）に位置し、総森林面積5,822haである。森林帶上は温帶林に属し、中部山岳林の代表的な林相を呈しており、すべての森林が秩父多摩国立公園の区域に編入されている。本演習林の地形は急峻で、その山容は大きく、またその環境は変化に富み、これらに対応して動植物相は多様であり、学術研究上好個の森林地域である。中部山岳林施業の基礎となる、樹木の生理・生態学的研究、人工林・天然林の更新方法についての研究、森林の公益的機能に関する研究などが続けられ、各種の学術参考林・試験林は200ヶ所を超える。本学部林学科の学生実習としては、森林植物学、森林動物学、森林土壤学、森林利用学、森林土木学などが行われている。

愛知演習林

愛知演習林は、1922（大正11）年9月に愛知県瀬戸市に創設された。本演習林は、現在瀬戸市・犬山市の2地区および静岡県新居町の海岸砂防試験地からなっており、森林面積1,293haである。森林帶上は暖帶林に属しているが、大部分はアカマツを主体とした針・広葉樹の混交天

然林からなり、そのほかはヒノキ、スギ、広葉樹の人工林と砂防植栽されたクロマツ林である。これらの森林を対象として、各種の育林、瘠悪林地改良、砂防造林などの試験が行われている。また、各所に森林量水試験地があり、昭和時代の初期から量水観測が継続実施されてきている。本学部学生実習としては、砂防工学および測量学が行われている。

富士演習林

富士演習林は1925（大正14）年11月山梨県山中湖村に創設された。本演習林は、富士山麓山中湖畔にあり、森林面積38ha（山梨県有林からの借地を含む）で、全体として東北向きの緩斜地に立地している。森林帶上は、温帯上限から亜寒帯への移行帶に当たるが、現在は全体が人工的二次林となっている。主な試験研究としてカラマツを中心とした寒地性樹種育林試験、レクリエーション関係諸施設を含む園地造成試験、およびそれを利用した森林風致計画研究などが行われている。本学部学生実習は環境設計演習学、他学部学生実習としては測量学などが実施されている。

樹芸研究所

樹芸研究所は1943（昭和18）年1月熱帯・亜熱帯の特用樹木を研究する施設として静岡県南伊豆町に創設された。本研究所は、伊豆半島の南端に位置し、森林面積246haである。森林帶上は暖帶林に属しているが、常緑広葉樹とクロマツを主とした天然林で、一部に明治末期に植栽されたクスノキ人工林および各種の特用樹木の植栽試験林がある。現在はアカシア属、ユーカリ属の植栽試験を行っている。また、温泉源を所有し、温泉熱を利用した温室があり、熱帶樹木の遺伝子資源の保全およびそれらの生理生態に関する研究も行っている。

田無試験地

田無試験地は、本学部林学科造林学講座の苗畠（田無苗圃）であったが（1929（昭和4）年10月設置）、1956（昭和31）年4月その管理が演習林に委嘱されたもので、1963（昭和38）年4月には田無試験地と改称された。本試験地は東京都田無市に所在し、面積9haである。内外国産樹木を遺伝子資源として数多く収集しているほか、主として樹木の生理学的研究および森林動物学に関する研究が行われている。また、学部学生の苗畠実習の場として利用されているほか、卒論などの作成のための試験研究も多数実施されている。

代々木演習林・府中演習林

代々木演習林・府中演習林は、戦前期の東京府（当時の豊多摩郡代々幡村大字代々木・北多摩郡府中町大字蛇久保）に所在していた。いずれも1902（明治35）年9月、民有地を購入して設

置された。代々木演習林は面積約 4 ha, 府中演習林は約 15 ha と他の演習林に比して面積が小さく元来樹木もない状態であったが、代々木演習林には内外国産重要樹種約 70 種を植栽して見本林を造成し、府中演習林にはスギを主とし、そのほか内外国産重要樹種 11 種からなる小規模の試験林を造り、造林に関連した各種の試験が行われた。しかし、代々木演習林は 1926 (大正 15) 年 8 月、前田利為氏所有地（本郷地区の一部）と交換され、府中演習林は 1935 (昭和 10) 年 8 月、東京高等農林学校の創設に伴い同校に移管され、ともに廃止された。

箱根演習林

箱根演習林は、1925 (大正 14) 年 6 月、帝室林野局東京支局より、神奈川県足柄下郡箱根町に所在した御料地 578 坪を借入して設定された。事務所のほか艇庫等が置かれたが、1935 (昭和 10) 年 5 月帝室林野局に返地され、本演習林は廃止された。

台湾演習林

台湾演習林は、1902 (明治 35) 年 9 月、台湾総督府所管国有林の譲渡を受けて設定された。本演習林は台湾島の中央に位置し、台中州竹山、新高の二郡にまたがり、その面積約 57,600 ha を数えた。本演習林の南界は北回帰線に接し、最低地点は海拔 220 m, 最高地点は新高山頂 3,950 m に及んだ。このような位置、地形から本演習林は亜熱帯より寒帯に至るすべての植物帯を備え、しかもその大部分が原生林であったため、林学研究上最も好適の学術資本林であった。地勢は一般に急峻であるが、溪流に沿った低地には種々の竹林が約 2,400 ha もあり、高地においては、タイワンヒノキ、ベニヒ、タイワンスギ、タイワンアカマツ等の針葉樹およびカシ、シイ、タブ、クスノキ、センダン等の広葉樹を産した。本演習林は、終戦に伴い 1945 (昭和 20) 年 12 月、中華民国台湾省林務局に接收され、廃止となった。

江原道演習林・全羅南道演習林

江原道演習林・全羅南道演習林は、戦前期の朝鮮に所在していた。ともに 1912 (大正元) 年 12 月、朝鮮総督府より 80 カ年の契約にて無償貸付を受け、設置されたものである。

江原道演習林は、朝鮮江原道高城郡に所在し、金剛山塊に源を発し南方を曲流する南江流域の大部分を占め、地形は南北に長く一団地をなし、その面積は約 30,900 ha であった。1913 (大正 2) 年 4 月高城郡邑東里に派出所を設けた。朝鮮における代表的な温帯林であったが、針葉樹はアカマツを主とし、これにチョウセンマツ、チョウセンハリモミ等を加え、広葉樹はカシワ、モンゴリナラ、アベマキ等を産した。

全羅南道演習林は、朝鮮全羅南道の東北隅に位置し、光陽、求礼二郡にまたがり、蟾津江流域に左右に分布し、その面積は約 22,300 ha であった。1914 (大正 3) 年 8 月、光陽郡光陽面に派

出所が置かれた。朝鮮における代表的な暖帯林であったが、針葉樹はアカマツが多く、高地においてはわずかにエゾマツ、チョウセンマツ等があり、また広葉樹はモンゴリナラ、イヌシデ、アカデ、サワシバ等が多くみられた。

江原道演習林・全羅南道演習林は、1945（昭和20）年8月、終戦とともに廃止された。

樺太演習林

樺太演習林は、1914（大正3）年6月内務省より所管換を受け、樺太に設置された。豊原支庁相川流域の全部および小田寒流域の一部を保有し、その面積は21,000haを数えた。南北に長い矩形状の一団地であったが、地形は概して緩傾斜であり、丘陵地帯をなしていた。森林帶上は寒帯に属し、林相は比較的単純であり、エゾマツ、トドマツ等の針葉樹が大部分を占めた。当初栄濱に事務所が開設されたが、1937（昭和12）年に落合に移転した。本演習林は、1945（昭和20）年8月、終戦とともに廃止された。

熱帯林業研究所

熱帯林業研究所は、熱帯林の調査研究に資するとともに、南方林業の改良指導を図ることを目的として、1940（昭和15）年8月中華民国海南島に設置された。同島崖県に南山嶺試験地約3,000haが、また感恩県および楽東県に感恩模範林約80,000haが置かれ、崖県に出張員事務所が開設された。本研究所は、1945（昭和20）年8月、終戦とともに廃止された。

演習林の管理・歴代林長

演習林が設定された当初、その保有面積が僅少だったので本学官制上特別の職員の配置はなかったが、演習林面積が漸次拡大され、試験研究業務が旺盛になるとともに、管理責任もまた重大さを加えた。そのため1898（明治31）年勅令第171号をもって東京帝国大学官制が制定（改正）された際、その第15条に次の条が設けられた。

第15条 農科大学附属演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大学教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス
演習林長ハ総長監督ノ下ニ於テ演習林事務ヲ掌理ス

この規定によって、これ以降農科大学（後に農学部）教授または助教授の中から文部大臣が演習林長を任命し、本学総長の監督のもとに演習林に関する事務を掌ることとなった。1898（明治31）年9月、初代演習林長として川瀬善太郎教授が就任した。ここに、歴代の演習林長とその在任期間を示すと以下のとおりである。

川瀬善太郎(1898～1920)	右田半四郎(1920～1930)	蘆部 一郎(1930～1939)
三浦伊八郎(1939～1941)	吉田 正男(1941～1947)	中村賢太郎(1947～1950)
三好 東一(1950～1951)	島田 錦蔵(1951～1954)	中村賢太郎(1954～1956)

藤林 誠 (1956～1958)	永田竜之助 (1958～1961)	島田 錦蔵 (1961～1964)
荻原 貞夫 (1964～1966)	平井 信二 (1966～1972)	扇田 正二 (1972～1974)
朝日 正美 (1974～1975)	平田 種男 (1975～1977)	浅野猪久夫 (1977～1982)
真下 育久 (1982～1985)	濱谷 稔夫 (1985～1988)	福島 康記 (1988～1991)
南雲秀次郎 (1991～1994)		

年 表

年 月	項 目
1874(明治 7)年 4月	現在の新宿御苑内に内務省農事修学場が設置された。
1877(10)年10月	農事修学場は、現在の駒場に移転し農学校と改称。
1878(11)年12月	現在の北区西ヶ原に内務省樹木試験場が創設された。
1881(14)年 4月	農学校および樹木試験場は、内務省から農商務省へ移管。
1882(15)年 5月	農学校は、駒場農学校となった。
1882(15)年11月	樹木試験場は、東京山林学校と改称。
1886(19)年 7月	駒場農学校は東京山林学校と合併し、東京農林学校となった。
1890(23)年 6月	東京農林学校は帝国大学に合併され、農科大学となり、農学科、林学科および獸医学科を設けた。
1894(27)年11月	わが国最初の大学演習林として千葉演習林が創設された。
1897(30)年 6月	東京帝国大学農科大学と改称。
1898(31)年 9月	大学官制上初めて演習林長が置かれ、川瀬善太郎教授就任。
1899(32)年10月	北海道演習林創設。
1902(35)年 9月	台湾演習林、代々木演習林、府中演習林創設。
1911(大正元)年12月	朝鮮演習林（江原道および全羅南道）創設。
1914(3)年 6月	樺太演習林創設。
1916(5)年12月	秩父演習林創設。
1919(8)年12月	東京帝国大学農学部と改称。
1922(11)年11月	愛知演習林創設。
1925(14)年 6月	箱根演習林創設。
1925(14)年11月	富士演習林創設。
1926(15)年 8月	代々木演習林廃止。
1929(昭和 4)年10月	林学科田無苗圃新設。
1935(10)年 5月	箱根演習林廃止。
1935(10)年 8月	府中演習林は、東京高等農林学校の創設に伴い同校に移管され、廃止された。
1940(15)年 8月	熱帯林業研究所創設。
1941(16)年 3月	林学科に林業学専修と林產学専修を設けた。
1943(18)年 1月	樹芸研究所創設。
1945(20)年 8月	台湾、樺太、朝鮮演習林および熱帯林業研究所は、終戦により廃止。
1947(22)年10月	東京大学農学部と改称。
1956(31)年 4月	林学科（林業学専修）が林学科と改称、林学科（林產学専修）が林產学科として新設された。
1956(31)年 4月	田無苗圃の管理が林学科から演習林に委嘱された。
1963(38)年 4月	田無苗圃は田無試験地と改称。
1994(平成 6)年11月	東京大学演習林創設 100 周年。